

見えないところを支える

肝付町立岸良学園9年 倉 美黎

学校の近くにある岸良浜には、毎年六月から七月にかけて多くの海亀が上陸する。この地域の特色を生かして、私たちの岸良学園には、学校独自の教科として「ウミガメ科」がある。その学習の一環として海亀の保護活動をしている。親亀が浜に産んだ卵を採卵して校内にある「海亀ハウス」で育て、孵化した子亀を海に放流する活動だ。

今年度は、そのような海亀保護活動に税金がどのように使われているかを知り、海亀と税の繋がりについて学ぶことができた。「私たちの活動にどう税金が関わっているのだろう。」という疑問を解決するため、興味深く税の学習について取り組んだ。

私はまず、環境を守るための税について調べてみた。炭素税、森林環境税、ガソリン税などがあり、それぞれ使う目的が異なる。炭素税は、化石燃料の消費によって排出される二酸化炭素の量に応じて課され、地球温暖化防止に役立てる。森林環境税は、森林を守り、水や空気をきれいに保つために使われている。ガソリン税は、ガソリンに課せられる税で、道路整備や環境保護のために使われている。これらの税は、どれも自然や生き物を守るための大切な財源だと感じた。

さらに、私たちは実際に肝付町役場の税務課に足を運び、職員の方々から直接お話を伺う機会を得ることができた。税務課では、税金の金額を決めて住民に知らせたり、納められた税金を管理したりする仕事があることが分かった。また、土地の境界を調べる仕事も担当されていることを知り、税務課の仕事が想像よりもずっと広いことに驚いた。

担当の方に、私たちの行っている海亀の保護活動に税金が使われているのかを質問してみた。浜清掃で出たゴミをゴミ収集業者が回収し、運ぶ作業に税金が使われているとのことだった。その話を聞いて、私たちの活動は、皆さんがあなめた税金によって成り立っているのだと知りハッとした。

私たちは、毎年、岸良浜の清掃を行っている。浜にゴミがあると、海亀が安全に上陸できなかったり、産卵する場所がなくなってしまったりする。だから、浜をきれいにすることは、海亀の命を守る上で重要な活動だ。

海亀の保護活動や浜清掃は、自分たちだけが頑張っていることだと思っていた。でも、その活動の見えないところに税金が使われていた。このような活動ができるのは、税金を納めている方々や、そこに予算を配分した税務課のみなさんのおかげだ。税金は、「人」の生活を支えるだけではなかった。自然環境や「生き物」の命を守るためにも使われている大切なものなのだ。

これから、もっと税金について学び、身近にある「税」の存在を知っていきたい。私は、今はまだ中学生だけれど、大人になったらしっかり責任をもって納税できるようになりたい。この学習でそう思えるようになった。